

東日本大震災への歯学研究科（北大病院歯科診療センターを含む）の対応は以下のとおりです。

1. ご遺体の身元確認への対応

3月15日 警察庁から日本歯科医師会及び日本歯科医学会を通じて研究科長あてに派遣可能者についての照会あり
本研究科から助教2名を派遣可能として連絡（その後派遣依頼はない）

2. 東北大学歯学部への支援物資送付

3月18日 東北大学歯学部長から新潟大学歯学部長（歯科大学学長・歯学部長会議常置委員会委員長）を通じて学部長あてに口腔ケア用品等の提供依頼あり

同日及び22日 以下の物資を新潟大学経由で発送

（内訳：ペーパータオル，除菌ウェットティッシュ，長靴，軍手，携帯カイロ，入れ歯安定剤，歯磨き粉，ゴム手袋，紙コップ，うがい薬，歯ブラシ，ディスプレイブルキャップ）

3. 青森県保険医協会への支援物資送付

4月中旬 青森県保険医協会から研究科長に歯科治療支援依頼あり

4月28日及び5月6日 歯科材料（義歯100床（上下各50セット））を発送

（内訳：即重レジン，T-cond，アルジネート印象材，WAX，リベース材，石膏，クラスプ線，補強線，人工歯，筆，研磨剤）

〔参考：青森県保険医協会の支援活動内容〕

場所：岩手県山田町

期間：4月23日～5月29日（集中期間4月29日～5月8日）

対象：避難所及び在宅被災者

内容：(1)義歯再製・修理，(2)これまでの緊急歯科治療のフォロー，(3)食生活・栄養・食摂取状況定点調査，(4)食生活支援

4. 被災地への歯科医療従事者の派遣

3月28日 厚生労働省から日本歯科医師会及び各学会を通じて研究科長あてに派遣可能者についての照会あり

本研究科（歯科診療センターを含む）から3名（助教・医員・大学院生）を派遣可能として連絡

4月28日 日本歯科医師会から改めて派遣可能数の照会あり

本研究科から3名（准教授2・大学院生）を派遣可能として連絡

5月13日 厚生労働省から具体的な派遣依頼あり（宮城県，5月22日（第7班）以降）

本研究科（歯科診療センターを含む）から歯科医師2名（助教・医員）を派遣可能として連絡

5月22日～30日 被災地で歯科支援活動実施（詳細は別紙参照）

5月25日 派遣先から現地における不足物資について連絡があり，即日発送

（内訳：歯間ブラシ，キシリトール入りノンシュガーのど飴，歯科用タブレット，ケーシー型白衣）

—歯学研究科及び歯科診療センターから宮城県に歯科医師を派遣—

歯学研究科では、東日本大震災被災地における歯科支援活動を目的として、宮城県歯科医師会から厚生労働省経由での要請に基づき、北海道大学病院の協力を得て、宮城県に5月22日（日）から30日（月）まで2名の歯科医師を派遣しました。

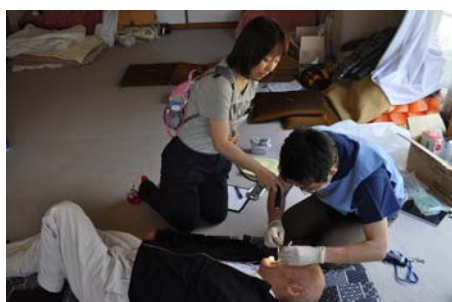
派遣したのは、歯学研究科の北村哲也助教と歯科診療センターの大井一浩医員で、この2名に地元の歯科衛生士1名を加えた3名で女川町地区（一部石巻市）の避難所を巡回し、5月23日（月）から29日（日）までの7日間、延べ82名に歯科治療と口腔ケアを行いました。



宮城県歯科医師会でのミーティング



治療する北村助教



治療する大井医員



がれきが散乱している女川町内



石巻市内の様子



被災地からのメッセージ

診察台のない避難所での治療は非常に困難でしたが、現地の歯科医師、歯科衛生士、保健師さん達の協力もあり、無事義歯修理・調整、口腔ケア等の歯科支援を行うことができました。

また、避難所への口腔ケアの歯ブラシ、歯磨き剤、シュガーレスガム、キシリトール入り飴などの配布も歯科支援の一環として行ってきました。

今後も、歯学研究科では、歯科医療チームの派遣や歯科医療物資の提供等、可能な限りの支援を継続していきます。